

鷄肉情勢

2025/7/14 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和7年6月末実施)によると、5月の推計実績は処理羽数67,020千羽(前年比103.2%)、処理重量197.8千ﾄﾝ(同100.1%)となった。処理羽数が前月時点の計画値から0.9%の上方修正となった。また、6月は前月時点の予測よりも処理羽数が0.1%上方修正、処理重量は2.1%下方修正の見通し。7月は処理羽数は前年同月比1.3%、処理重量は同2.6%それぞれ減少の見込みとなった。また、8月については処理羽数が前年同月比3.2%、処理重量は同3.7%それぞれ減少の予測となっている。
工場の人員については引き続き不足が課題となっている中、副産品(小肉・剣状軟骨など)・手羽中半割等の1.5次加工品は機械を導入し製造している産地が見られるようになってきた。この省人力化の流れは、今後他産地にも広がっていくと思われる。

供給

2. 輸入

内容

(1) 財務省の貿易統計によると、令和7年5月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+0.8千ﾄﾝの48.5千ﾄﾝ、国別ではブラジルが前月+3.3千ﾄﾝの33.7千ﾄﾝ、タイが▲2.8千ﾄﾝの14.0千ﾄﾝとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)によると今後の見通しでは、輸入量は6月が50.1千ﾄﾝ(前年比101.5%)と増加するも、7月は45.1千ﾄﾝ(同87.0%)と減少する予測である。要因としては「6月は外食や中餐などの好調な需要を背景に、輸入量の増加が見込まれること等から、前年同月をわずかに上回る一方、7月はタイ産の船積遅れ等から、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。」と報告されている。

(2) 令和7年5月の鶏肉調整品の輸入量は43.3千ﾄﾝと前月並み。国別では中国が▲1.6千ﾄﾝの15.3千ﾄﾝ、タイが+1.8千ﾄﾝの26.8千ﾄﾝとなった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴い中餐・総菜向け等の引き合いも継続している。

(3) ㈱食品産業新聞社発行の畜産日報によると、5月の輸入鶏肉(モモ肉)の価格はブラジル産で460円/kgから490円/kg(前年加重価格390円/kg)、タイ産が500円/kg中心(同420円/kg)となっている。要因としては「これまでブラジルの船積み数量が少なかったことに加え、先般のHPAI発生を受け、市中はややタイト感が出ている。タイ産は他国からの引合い増加で、オファーがほとんど出てこない状況が続いている。」と報告されている。

需要

1. 家計消費

内容

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和7年5月の生鮮肉消費(購入)は数量4,205g(前年比99.6%)、金額6,986円(同104.5%)と、金額は前年を上回ったものの、数量は前年を下回った。鶏肉は数量1,564g(同99.7%)・金額1,664円(同105.0%)・単価106.4円/100g(前年同月+5.4円)と金額・単価ともに前年を上回ったものの、数量は前年を下回った。また、牛肉は数量・金額ともに前年を下回る結果となった。要因としては輸入牛肉の価格高騰によるものではないかと考える。豚肉は前月に引き続き為替による高値基調により、金額は前月を上回った。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

要

2. 量販・卸

内容

(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和7年5月の食品売上高は全店ベースで前年比105.0%と前年を上回り、生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.3%、既存店ベースは同101.0%。畜産部門の売上高は約1,272億円で全店ベース同104.4%、既存店ベース同102.9%となった。また同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると、「全般的に相場高が続き、豚肉・鶏肉への需要シフトが継続しているが、前年からの反動もあり改善傾向がみられた。牛肉は依然として厳しい状況が続くものの、切り落としや味付肉など低価格・簡便な商材は好調に推移した。連休・母の日のステーキ・焼肉などハレの日関連は好不調が分かれた。国産豚の価格上昇が続く一方、前年不振だった輸入豚が好調に推移した。鶏肉はブラジルの鳥インフルエンザの影響もあり高騰傾向が続き、利益確保に悩む店舗が多くなっている。」と報告されている。

在庫

3. 業務・加工筋

内容

(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和7年5月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.3%の4.7千ﾄﾝとなった。うち国内品は同102.0%の3.8千ﾄﾝ、輸入品については同103.3%の0.9千ﾄﾝとどちらも前年を上回った。

相場

1. 令和7年5月

内容

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の5月末時点推定期末在庫では国産27.0千ﾄﾝ(前年比74.4%)、輸入品128.2千ﾄﾝ(同97.8%)、合計で155.2千ﾄﾝ(同92.7%)となった。

相場

2. 見通し

内容

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、5月の出回り量は国産144.3千ﾄﾝ(前年比98.6%・前月差▲5.0千ﾄﾝ)、輸入品47.8千ﾄﾝ(同97.0%・同▲3.7千ﾄﾝ)、合計192.1千ﾄﾝ(同98.2%・同▲8.8千ﾄﾝ)となり、前月からは国産・輸入ともに出回り量は減少した。6月以降の出回り量は「6月、7月ともに前年同月をわずかに上回ると予測する。期末在庫は、6月はかなりの程度、7月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、過去5カ年の同月平均との比較でも、6月はやや、7月はかなりの程度、いずれも下回る(6月:3.0%減、7月:6.9%減)と予測する。」と報告されている。

相場

1. 令和7年6月動向

内容

(1) 令和7年6月の月平均相場は、モモ肉832円/kg(前月差▲10円)・ムネ肉530円/kg(同+33円)正肉合計で1,362円/2kgと前月比+23円、前年同月比+389円となった。㈱食品産業新聞社発行の畜産日報によると、「国産生鮮モモは荷動きの弱さに反して、唱え値は依然として高値を維持している。ムネは生鮮・凍結品ともに引合いが強く、一段上げに。日経相場でも中旬以降、530円台と異例の高値を付けている」と報告されている。

相場

2. 見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査によると、6月の生産量は入雛羽数・処理羽数は前年並みに推移するものの、処理重量は前年比微減の見込みとなっている。鶏肉相場は、4月以降モモ肉、ムネ肉共に高騰し高止まりが続いている。量販店では国産品の店頭売価を改定したり、輸入品(ブラジル産・タイ産解凍商品)への販売シフトが多くみられている。また、国産鶏モモ肉と輸入豚肉との売価が逆転する店舗も見受けられ、今後の国産鶏モモ肉の需給動向に不安感が出てきている中、在庫積み増しを避けるため相場を大きく下回る安価な国産鶏モモ肉も出回っている。
このような事を踏まえ今後の相場は、モモ肉は7月以降も需要が回復するまでは右肩下がりの傾向が続き、ムネ肉は需給がタイトな状況のため540円前後で推移すると予測する。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R6年累計(推計)		R7年5月実績		R7年6月計画		R7年7月計画		R7年8月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	791,537	101.1%	67,559	102.9%	60,861	100.8%	62,302	96.7%	65,891	96.3%
処理羽数	750,759	100.9%	67,020	103.2%	61,153	100.6%	54,474	97.6%	56,900	96.8%
処理重量	2,273.2	101.5%	197.8	100.1%	180.0	96.4%	174.3	95.4%	166.0	96.3%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0
R7年1月	52.3	54.7	95.6	38.6	35.7	108.2	90.9	90.4	100.6	57.5	42.5
R7年2月	47.7	55.4	86.1	33.8	34.3	98.4	81.5	89.7	90.8	58.5	41.5
R7年3月	42.3	52.7	80.3	43.5	38.3	113.6	85.8	91.0	94.3	49.3	50.7
R7年4月	47.7	52.0	91.7	43.3	44.6	97.0	91.0	96.7	94.2	52.4	47.6
R7年5月	48.5	53.3	91.1	43.3	40.8	106.1	91.8	94.0	97.6	52.9	47.1

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8
R6年平均	1,552	1,495	103.8	1,586	1,547	102.5
R7年1月	1,563	1,501	104.1	1,650	1,608	102.6
R7年2月	1,499	1,584	94.6	1,601	1,605	99.8
R7年3月	1,650	1,614	102.2	1,719	1,650	104.2
R7年4月	1,549	1,509	102.7	1,630	1,539	105.9
R7年5月	1,564	1,569	99.7	1,664	1,585	105.0

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010
R5年	730	395	1,125
R6年	655	369	1,024

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R7年1月	26.3	31.2	84.3	139.2	125.9	110.5	165.4	157.0	105.3
R7年2月	25.7	34.9	73.8	139.2	124.1	112.1	164.9	159.0	103.7
R7年3月	25.8	36.9	69.9	131.2	129.1	101.7	157.0	166.0	94.6
R7年4月	25.0	35.5	70.3	127.4	127.1	100.3	152.4	162.6	93.8
R7年5月	27.0	36.3	74.4	128.2	131.0	97.8	155.2	167.3	92.7

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

出回り量(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年累計	1,721.2	1,689.0	101.9	619.9	606.3	102.2	2,341.1	2,295.4	102.0
R7年1月	142.4	142.5	99.9	48.1	44.5	108.1	190.5	187.0	101.9
R7年2月	137.2	140.8	97.4	47.6	57.1	83.4	184.9	198.0	93.4
R7年3月	146.5	141.8	103.3	50.3	47.7	105.4	196.7	189.5	103.8
R7年4月	149.3	147.8	101.1	51.5	54.1	95.3	200.9	201.8	99.5
R7年5月	144.3	146.4	98.6	47.8	49.3	97.0	192.1	195.7	98.2

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0
R7年3月	740	661	112.0	392	364	107.7	1,132	1,025	110.4
R7年4月	799	639	125.0	444	356	124.7	1,243	995	124.9
R7年5月	842	631	133.4	497	354	140.4	1,339	985	135.9
R7年6月	832	619	134.4	530	354	149.7	1,362	973	140.0
R7年7月	(790)	613	128.9	(540)	355	152.1	(1,330)	968	137.4
R7年8月	(770)	613	125.6	(540)	359	150.4	(1,310)	972	134.8

※()は見通し